

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101826		
法人名	医療法人 春光会		
事業所名	グループホーム雁ヶ音	ユニット名	1F
所在地	宮崎県宮崎市東大宮4丁目20-15		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570101826&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・報告、連絡、相談の徹底
- ・職員の質の向上
- ・地域との連携

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員が、理念に沿った支援を目指し、利用者に寄り添い、利用者本位の生活ができるよう、管理者の指導の下、職員間で切さく磨して支援している。
自治会の活動に積極的に参加して、地域の一員として大きな存在になっている。また、福祉の拠点としての機能も持ちつつある。
重度化や終末期の対応について、職員全員で話し合い、勉強会も重ねて共通認識を持ち、医療関係機関との連携も作り、体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて、交代で理念を唱和し、意識を高めている。 管理者より理念を具体化して説明している。		わかりやすい言葉で理念が掲げられ、職員全員が理念の実践に向け努力している。 日々のケアを常に振り返り、職員間で話し合うなど、具体的なケアで共通認識が持てるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 地域の行事にご招待いただいたり、地域の祭りの実行委員になったりしている。 地域の会議時には、会議室を開放している。		自治会に加入し、地域パトロールへの参加、祭の実行委員を務めるなど、地域活動に積極的に参加している。地域の人が気軽にホームを訪問し、散歩の折に世間話を交わすなど、地域での自然な交流ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々・民生員などに、認知症やグループホームの役割について例をあげ、具体的に説明をしたり、相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回実施し、前回からの取り組み内容を報告している。 また、出席者からのご意見や疑問をリーダー会などで取り上げ、協議している。		利用者の状況や行事等を報告し、参加メンバーからは活発な意見や要望が出て、双方向的な話し合いが行われている。ホームを災害時の一時避難場所へとの要望が出、受け入れ体制を整えるなど、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営内容で、分からない事は市へ尋ね、丁寧に説明していただいている。 現場からは、センター方式の研修等に積極的に参加し、助言・指導していただいている。		運営や利用者の福祉援助等、市へ連絡や相談を積極的に行っている。また、市の主催する研修に、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体スタッフ会議で、身体拘束に関する勉強会を行い、全ての職員が身体拘束について理解できるようにしている。 「施錠をしない！」を目指し、いつでも外出できるケアを実践している。		身体拘束をしないケアについて、スタッフ会議等で研修を重ね、全職員は、利用者が抑圧感を感じない暮らしができるよう支援している。特に利用者に寄り添い、「気づき」を大切にし、言葉遣いや言葉かけに気配りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	宮崎県虐待防止研修会に参加し、スタッフ会議で全職員に指導し、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、定期的にスタッフ会議で勉強会を行っている。 制度を利用されている方も入所されている為、具体例を挙げながら、理解を深める事ができている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者・ケアマネ・事務で十分な説明を行い、いつでも質問ができる信頼関係を築けるように努めている。 保険改定時には、新たな同意文書を作成し、説明を行い、ご署名いただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見・要望・不満等が挙げたら、すぐに検討・協議している。 結果は家族へすぐに報告し、運営推進会議でも出席者へ報告している。		来訪時に声かけして、意見や要望、不満を聞いている。出された意見等は、早急に協議、検討して改善している。また、その結果については、家族へ報告している。	行事等の折に家族同士が話し合える場を設け、意見や不満、要望を表せる機会を作り、家族会の組織につなげていく取組を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議にて、各フロアリーダーが職員の意見や提案を代表者へ報告し、検討している。		ミーティングやスタッフ会議で、職員の意見等を聞き、リーダー会議で代表者に報告、相談する体制ができている。日ごろから代表者がホームを訪問し、職員とコミュニケーションが図られ、意見や要望、提案を聞く体制ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダー会議や個別に代表者へ職員の状況を管理者・各リーダーから報告を行っている。役割の改善を行った。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の力量に応じて参加してもらっている。 研修報告書の提出と共に、全体スタッフ会議にて研修報告をしてもらい、レベルアップを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修出席時には、入所状況やサービス内容などの意見交換を積極的に行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりアセスメントに力を入れ、本人が困っている事、不安な事などを聞き、それらに対応出来るように、環境やケアの統一を図り、本人の安心の確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を活用しながら、ご家族とゆっくり話をする時間を作り、信頼関係を築くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個別に適切な支援が行えるように、ケアマネを中心として管理者・全スタッフで会議を行い、統一したケアを実施している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に家事を行い、不慣れなこと等を教わったり、暮らしの知恵なども教わっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態を共有し、ご家族に負担にならない程度に面会・外出・行事への参加を促し、三者の関係を築くよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を利用し、アセスメントにより浮かび上がった事を重要視し、継続できるように支援している。	遠方から知人や親戚が訪ねて来たり、利用開始前の隣人が、定期的に来訪する利用者がいる。来訪時には声かけしてお話したり、家族へ連絡するなど、関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定の方とばかり過ごすのではなく、会話・作業を一緒に行えるように、職員も間に入って支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、ご本人に混乱が生じないように、施設・医療機関・ご家族に情報提供を行い、相談にもいつでも応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の会話・担当者会議での家族との話し合いで、把握に努めている。 センター方式も利用している。		日々のかかわりの中で思いや意向を把握し、言葉かけやアプローチに気をつけ、気づきを大切にしている。また、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント情報や家族との面会を利用したり、本人との会話より把握に努めている。 センター方式も利用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式D-4シートに記載されている内容や、フロア会議のカンファレンスで、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、家族の要望・スタッフの意見・アイデアを反映できるよう努めている。		本人には、日ごろのかかわりの中で、家族の意向は来訪時等に確認して、モニタリングを基に職員全員で話し合い、担当者会議で家族も一緒に検討して、本人本位の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D-4シートを活用し、情報を共有しながら、実践・計画の見直しに努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特変時のニーズとして、管理者・ケアマネが対応し、既存以外のサービスを提供している。			

自己	外部	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が、歌・踊り・押し花・生け花など、様々なボランティアとして来設がある。地域三世代交流で、田植えにも参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人・ご家族が選択でき、受診時には情報提供書を作成している。		本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。病院受診の際には、情報提供書で連携をとっている。定期的に往診があり、訪問看護と連携もできており、利用者が適切な医療を受けられる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化に気付いた介護職員は、看護師・訪問看護師に速やかに連絡し、指示を受ける。 また、一連の報告・対応のマニュアルを整備している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心として、入退院時には医療機関と連携を図り、情報提供・情報収集を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス時に、重度化した場合の施設の方針を話しながら、ご家族の希望を聞いている。 主治医や訪問看護師など、同席したカンファレンスも実施している。		初期の段階で、ホームの方針を基に、家族と話し合いを持っている。本人や家族の要望があれば、重度化、終末期の対応ができるよう勉強会を重ね、職員の共通認識を図り、医療関係との連携体制も作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使用しながら、定期的に全職員を対象とした救命訓練を実施している。 緊急時対応のマニュアルも整備されている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に、昼・夜を想定した火災・災害訓練を定期的に行っている。 緊急時には、近隣世帯に通報が入るシステムがある。		いろいろな状況を想定した避難訓練を実施している。地区の防災訓練に利用者と一緒に参加している。会議等で常に話題にして、備品等を準備、確認している。緊急時には、近隣世帯に通報が入るシステムがあり、近隣の協力が得られる体制がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・尊厳に関わる事柄の確認やケアを実行する際には、個室や他の方がいらっしやらない空間で行うように心がけている。	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応を行っている。さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にオープンクエスチョンを心がけ、自己決定ができる環境・関係作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調・ペースを考慮し、表情・会話の中で、今やりたい事を引き出している。入浴・食事・散歩・昼寝など柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容が月1回あり、カットやカラーなど、好みのサービスを受けられるようにしている。季節に応じた色柄や服装ができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に合わせた調理、味付け、盛り付け、配膳、後片付けなど、職員と一緒にやっている。食事形態にも柔軟に対応している。	利用者は力量に応じ、下ごしらえや盛り付け、配ぜんを職員と一緒にやっている。職員も一緒にテーブルを囲み、さりげなく介助しながら楽しく食事をしている。利用者の状況に合わせた形態を用意し、自分で食事が食べられるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、献立が作成されている。食事・水分量を個別にチェックシートに記入し、不足している方には、個別に補食・水分補給を積極的な声掛けで行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、職員が口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。 個別の誘導時間があり、さりげない声掛けを心がけし、オムツを使用されている方でも、トイレでの排泄を行っている。		排せつチェックシートを活用して、一人ひとりのパターンを把握し、さりげない誘導でトイレでの排せつを支援している。利用開始後に、オムツがなくなった利用者や失禁が無くなった利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因を理解し、ご本人に合った適切な水分補給・歩行訓練・体操などを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シャワー浴・浴槽入浴・足浴など、ご本人の体調に合った入浴ができる。		一日おきという目安はあるが、いつでも希望する日に入浴できる体制になっている。シャワー浴や足浴など、利用者の希望や状況にあわせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠(昼・夜)は、ご本人のリズムに合った時間にとれるようになっている。 天候の良い日には寝具を干し、気持ち良く安眠できるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、全ての介護職員が薬の内容などを理解し、ご利用者の体調の変化に速やかに気づき、報告する体制をとっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に、貼り絵・習字・家事など、ご本人に合った役割を持っていたいっている。 漬物・コーヒーなど自宅で食べていた物も、個別で楽しまれている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら、隣接する公園・地場産品店に出かけたりしている。 また、数々の年中行事で季節を感じる事が出来る花々を見学に行っている。		散歩は日課になっており、公園や野菜市場に出掛けしている。また、季節に応じ花の見学など、外食を兼ねて出掛けることもある。	さらに日常的な外出支援のみでなく、本人が行きたい場所への外出支援、一人ひとりの習慣や楽しみ事と併せての外出支援等に取り組まれることも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、個別で所持されており、外出時に買い物をしてしている。 事務所でも管理している為、買い物支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話は自由に行える。 職員と一緒にいたりもする。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただける明るさ・室温・湿度が決まっており、常に職員が調整している。 また、リビングの壁を利用して、季節に合った壁画を作成して、展示している。		利用者が居心地よく過ごせる明るさや温度、音量に気を配り、調節している。ソファが置かれ、利用者が気ままに過ごせる空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファ席・テーブル席を設け、思い思いの場所で過ごされている。 一人の時間を希望される方は、自室である個室で過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた愛用の品々を持参していただき、自宅に近く・過ごし易い配置にしている。		仏壇や愛用の品、テレビ等を持ち込み、家族の写真を飾り、利用者が居心地良い居室になるよう支援している。生け花の好きな利用者には花を用意し、居室に自分で生けた花が飾れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標示をしたり、自室前には表札があり、目視で分かる環境作りを行っている。			